



田崎 香澄

〓 日之影町立日之影6年

こともワンアクションにながることも分かった。

そんな時、ある新聞記事を見つけた。「ルワンダ難病児 手術費集め奔走」というものだ。私は、なんとかしたいと思った。すぐに自分のお年玉を貯金していた口座から募金した。私の募金した金額はほんのわずかだけど、みんなの力が合わされば、必ず助けられる。難病の子どもを救うために募金を呼びかけた宮崎市出身の津田さん。思うだけではなくて、1人でも助ける津田さんのような人に私もなりたいと思う。

8月8日の新聞記事には、私と同じ小学6年生の波田野優さんが「児童労働新聞」を手に笑顔でうつつ

ていた。その横には「児童労働身近な問題」という見出しがあった。私は気になり、記事を読んでみた。すると、私たちは児童労働で作られた多くの輸入品に頼って生活していることが分かった。児童労働者が一生懸命働いているから、今の私たちの生活が成り立っている部分もある。私はものすごく悲しい気持ちになった。さらに記事には、チョコレートの原料のカカオや、Tシャツの原料のインド産コットン、スマートホンの部品のアフリカ・コンゴ産の鉱石などを児童労働者が作っていると書いてあった。私たちのこんな身近なものまで、それを当たり前のように食べたり、使ったりしていることを知らなかった。ショックだった。

波田野さんは、このことを調べ、日本の人に、世界の人に、児童労働について知ってもらおうと頑張っている。津田さんと同じだ。児童労働を無くそうと思

い、行動する人がいる。それを見て、児童労働について知ろうとしてくれる人がいる。こうやって、どんどん児童労働がゼロに近づいていくようにたくさんの方の心に広がると、私は、とてもうれしい。私は、今まで児童労働者は、ただかわいそうと思っていた。しかし、私たちの生活の中にはその児童労働で成り立っている物があると知り、胸が苦しくなった。児童労働を調べることで思うだけではなく、行動することも大事だと考えるようになった。

私は、津田さんや波田野さんみたいに1人でも人を助けられる人になりたい。私は、将来、自分で考え、行動にうつし、児童労働者がゼロになる世界にしたい

と思う。

児童労働がゼロになる世界に

国語の授業で、SDGs という言葉に出会った。最初はなんだか分からなかったけど、調べていくうちに2030年までに、17の目標を達成しなければならぬことが分かった。その中の児童労働という言葉が目

が止まり、調べることにした。世界には、家庭の事情で学校にも行けずに働く子どもたちがいるそうだ。小さい子は5才くらいの子もいると知りおどろいた。みんな自分で出来ることは何かを考え、ポスターを作った。募金や、買い物でオーガニックコットンを選ぶ

小学生の部
最優秀賞

第19回「新聞感想文コンクール」

新しい自分発見